大和川付け替えと新田開発

最初の新田検地から二〇〇年
暴れる大河は新田として
生まれ変わった・・・

2008年
3月22日(土)～6月15日(日)

柏原市立歴史資料館

開館時間　9時30分～16時30分
休館日　月曜日
入館料　無料

交　通　JR大和路線高井田駅から徒歩5分
　　近鉄大阪線河内国分駅から徒歩15分
電　話　072-976-3430

大和川付け替えと新田開発

河内平野にたびたび洪水をもたらせた大和川は、宝永元年（1704）に付け替えられ、柏原から西へ向かって流れるようになりました。もとの大和川は、長瀬川や玉串川などの小さな水路のみを残し、新田に開発されていきました。新田の開発から３年間は、鍬下年季三年といい、年貢を納める必要がありませんでした。そして、年貢高を決めるために、最初に検地が実施されたのが宝永５年（1708）のことで、今年はちょうど300年になります。そこで、柏原にゆかりの深いものを中心に、大和川付け替え後に開発された新田について紹介してみたいと思います。

新田開発には、地元の庄屋などの有力者のほか、豪商や寺院なども参加しました。新田の開発者は入札によって決められ、この入札による幕府の収益は約37,000両。この収入によって、大和川付け替えで幕府が負担した費用は、ほぼ回収されました。

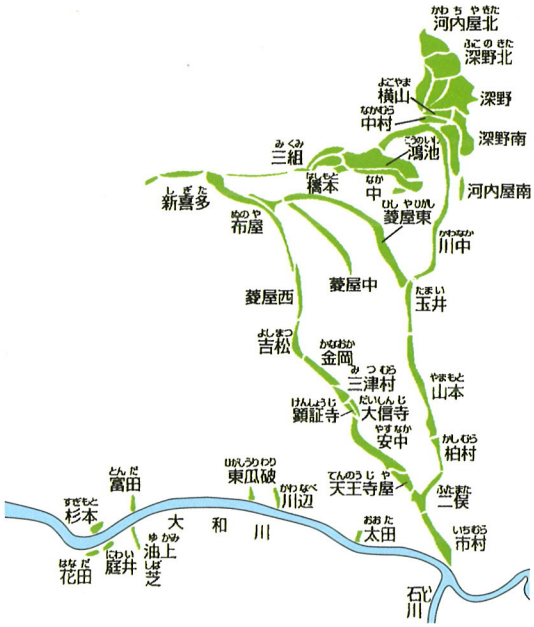
また、旧大和川筋だけでなく、旧西除川や依羅池なども新田に開発され、新大和川のもたらす土砂によって埋まる河口も徐々に新田に開発されていきました。

旧大和川筋の新田開発

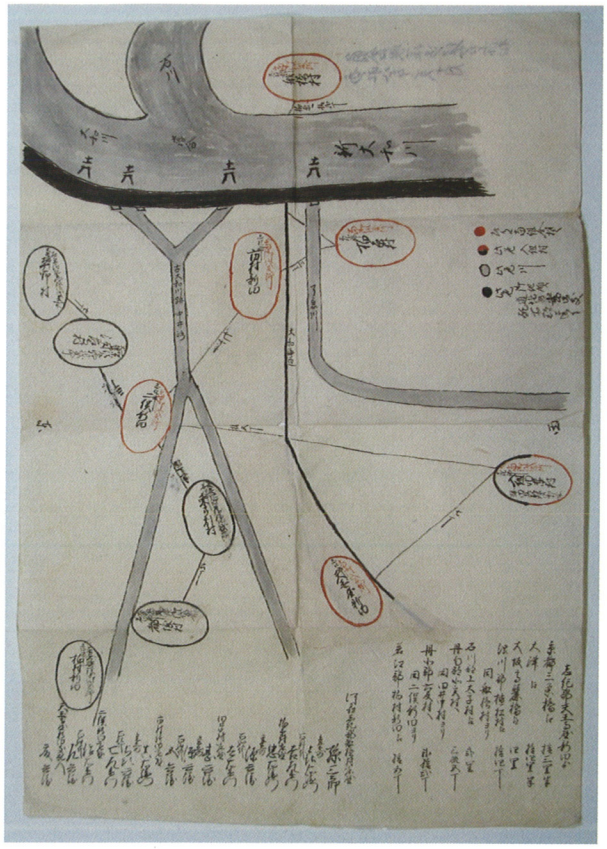
旧大和川筋に開かれた新田は約1,000町歩で、新大和川によってつぶれた土地275町歩の４倍近くになります。開発には、柏村新田や中新田のように地元の有力者が行う場合や、鴻池新田、菱屋西・中・東新田のように有力町人が行う場合、深野新田や安中新田のように東本願寺や安福寺といった寺院が行う場合がありました。

新田とはいうものの、もともと天井川だった旧大和川の河川敷なので、水持ちが悪く、水田はほとんど作ることができず、おもに畑が作られていました。畑では、綿や菜種などが植えられ、とくに綿は河内木綿として全国に流通することになりました。しかし、新田の開発には大変な苦労があったようです。深野池や新開池では湿地の開発に苦労し、その他の新田では、水の確保に苦労したようです。地下を流れる伏流水をくみあげるため、新田には「はねつるべ」と呼ばれる井戸がたくさんつくられて、独特の景観を生み出していました。

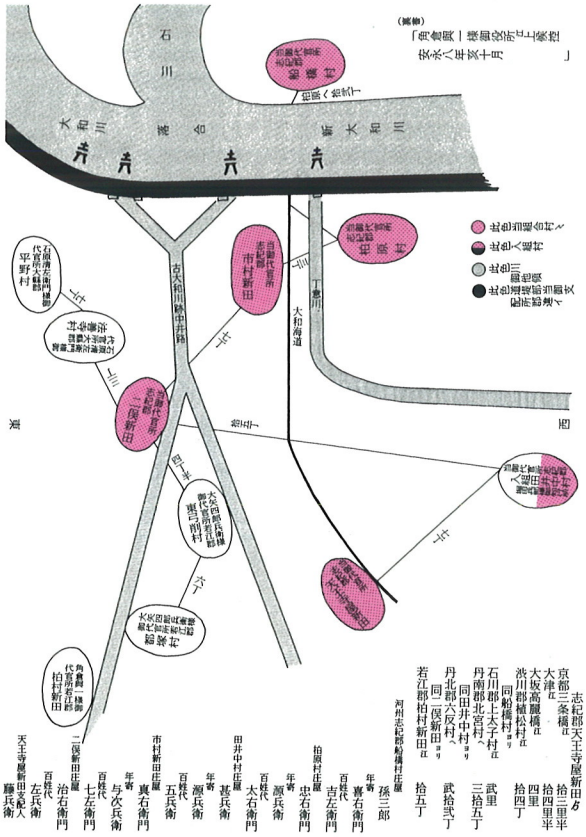
築　留



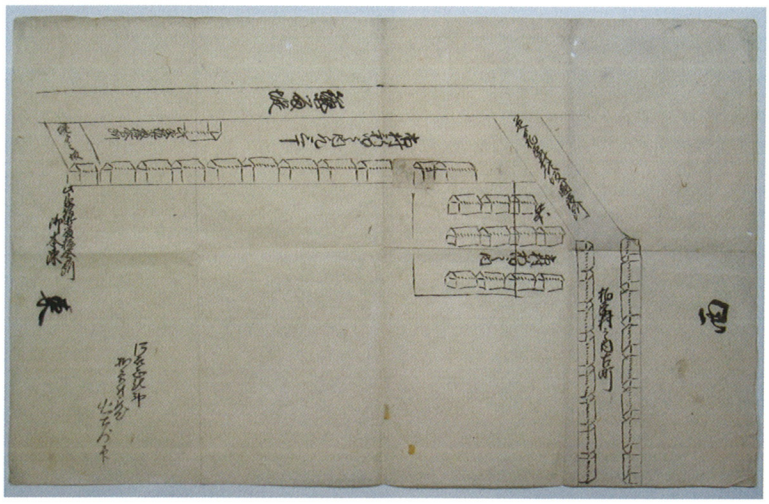
付け替え後に開発された新田
（中九兵衛『甚兵衛と大和川』より）



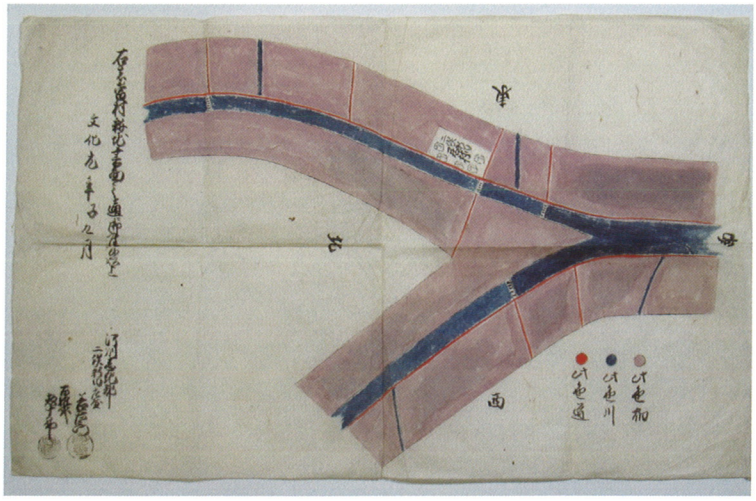
角倉與一代官所支配組合村絵図（小山家文書）



同　左

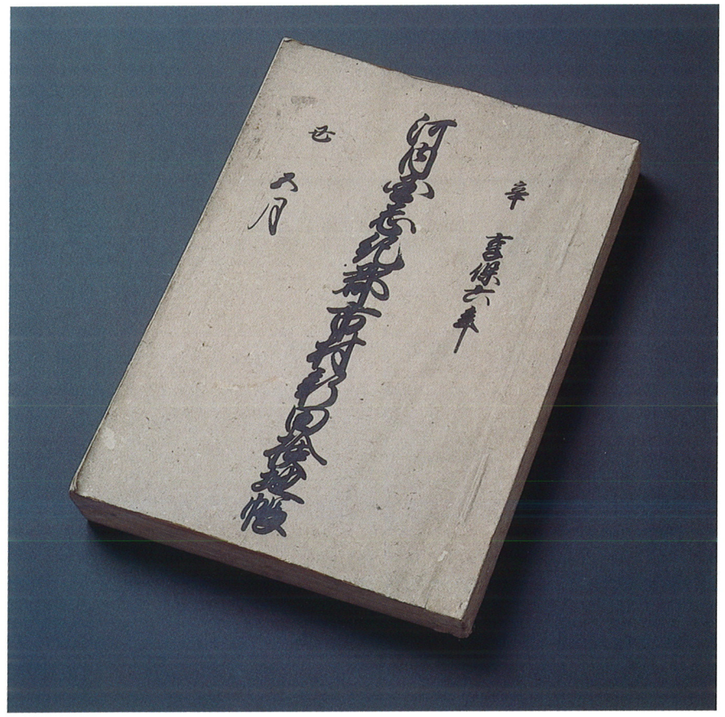


築留絵図（小山家文書）

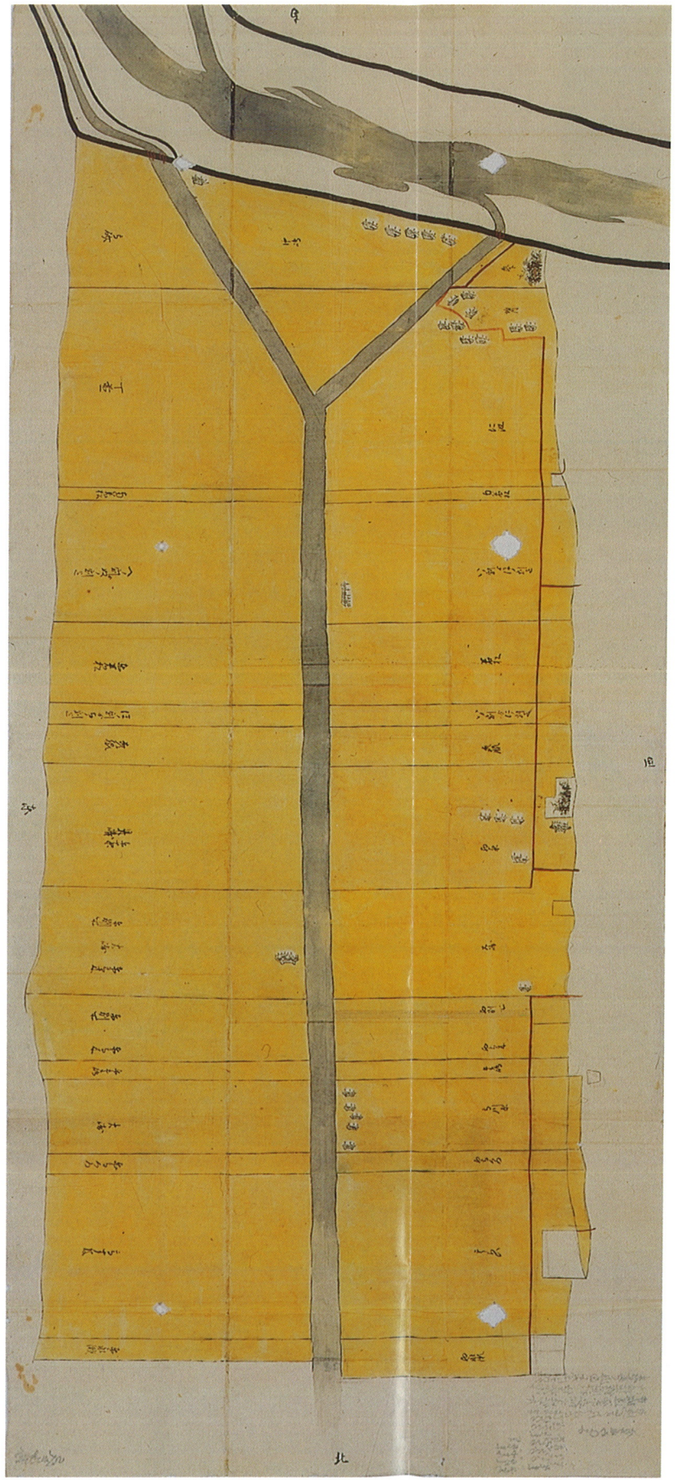


二俣新田絵図（小山家文書）

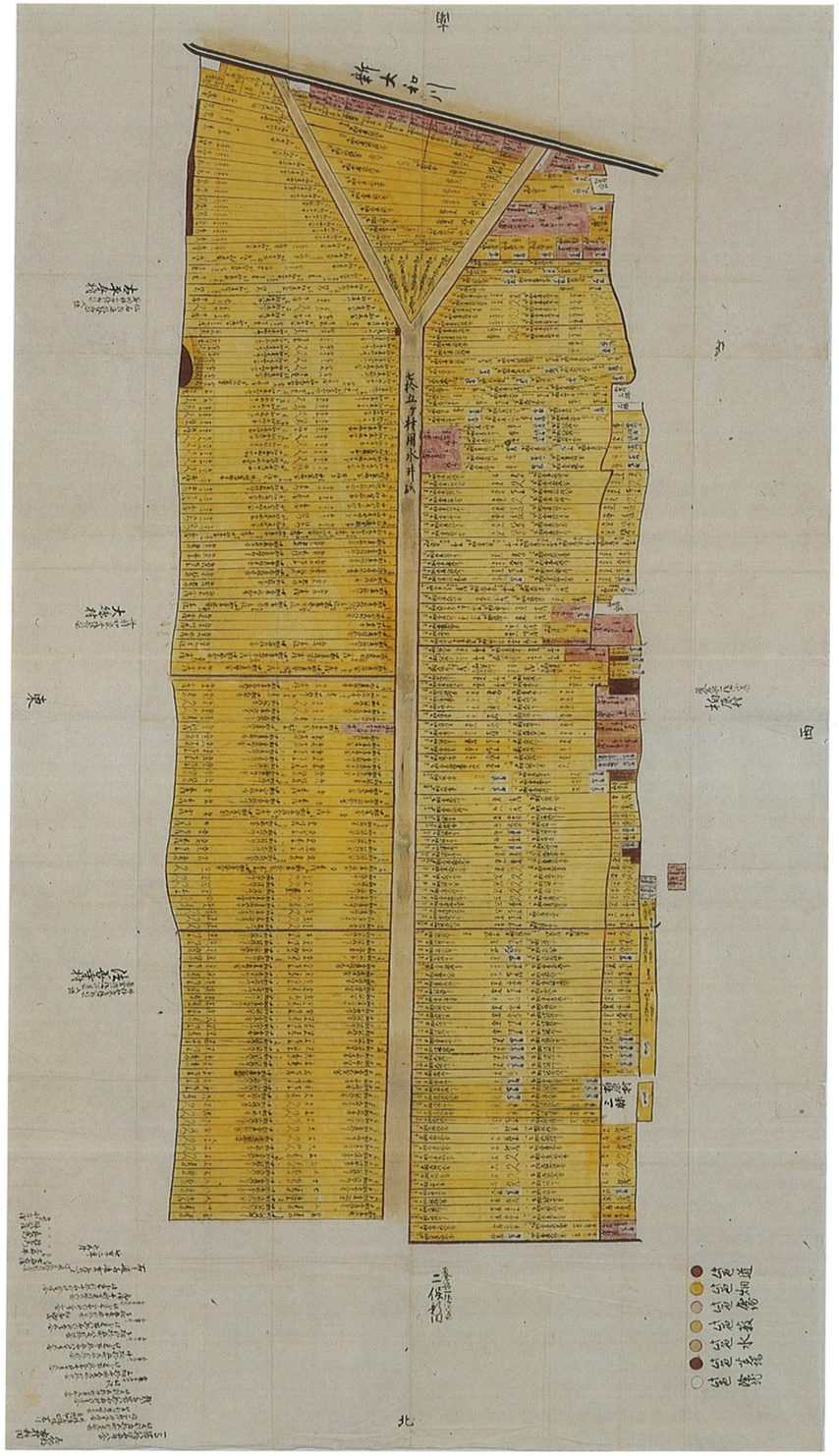
河内国志紀郡市村新田検地帳（宝永５年・寺田家文書）



河内国志紀郡市村新田検地帳（享保６年・寺田家文書）



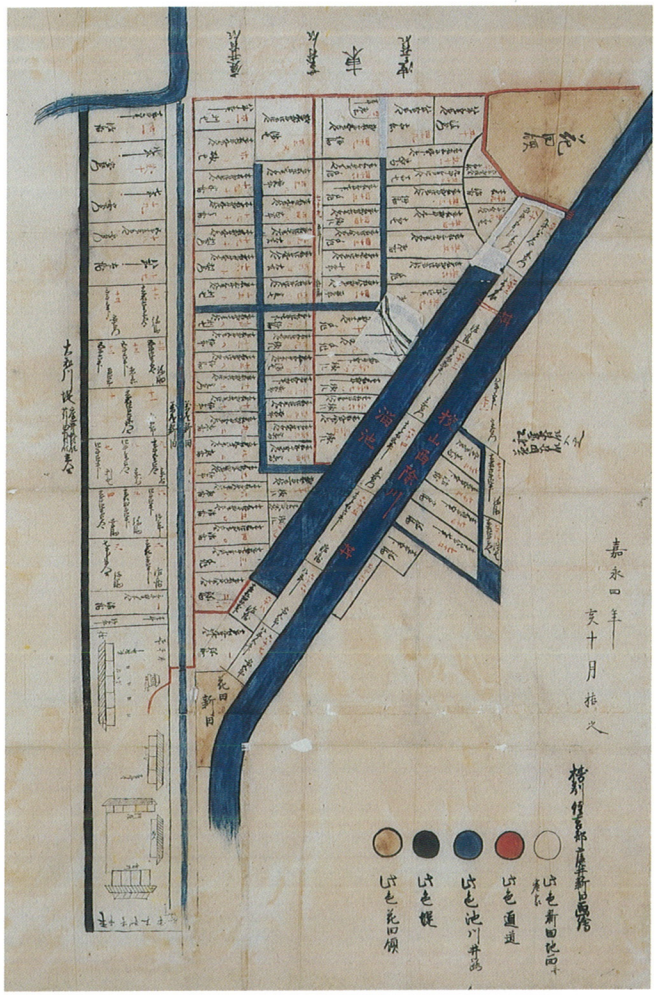
市村新田絵図（宝永５年・寺田家文書）



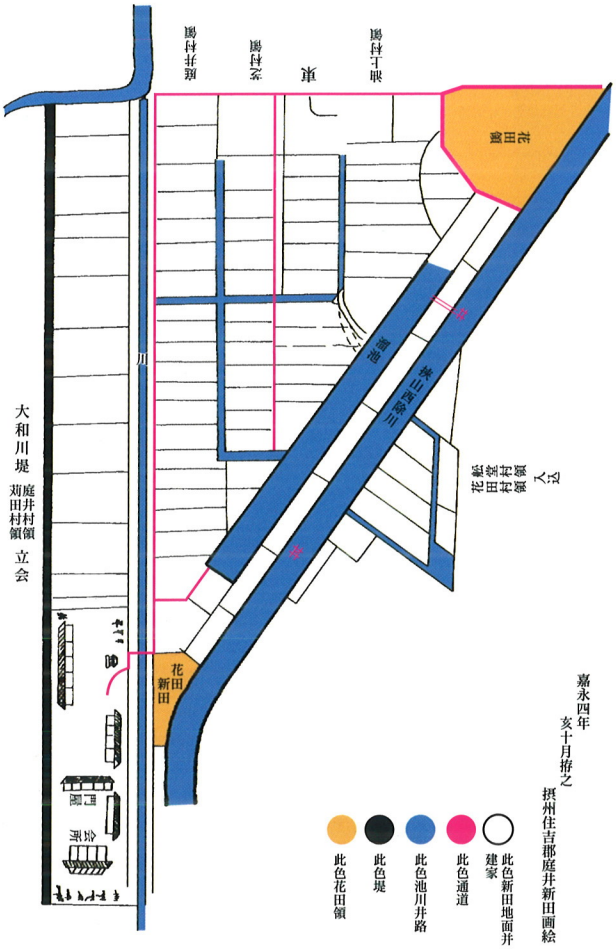
市村新田絵図（延享２年・寺田家文書）

摂津国住吉郡庭井新田検地帳（宝永５年・柏元家文書）

同　左（享保６年・柏元家文書）



庭井新田絵図（柏元家文書）



同　左

市村新田

市村新田は、現在の柏原市上市、清洲、堂島町、河原町にあたり、北は二俣新田に接しています。市村新田の開発には、船橋組、北条組、苅田組、藁屋組、四人組、柏原組という６つの組合が参加しました。その中でも柏原組は23人ともっとも多く、庄屋は各組が１年交代の輪番制であたることになっていました。しかし、幕末には今町の寺田家が庄屋を勤めることになりました。

市村新田は、50町歩余りの面積で、307石余りの石高があり、付け替え後に開かれた新田のなかでは、規模の大きいものです。しかし、旧大和川が天井川であったため、付け替え後につくられた長瀬川より３ｍも土地が高く、水の確保には苦労したようです。そのため、水田はまったくなく、すべて畑でした。その畑も収穫の多い上畑は全体の３％にすぎず、中畑20％、下畑50％、下々畑30％となっており、収穫の低い土地が多かったことがわかります。また、絵図をみると、新大和川に近いところに下畑、下々畑が多くみられ、新大和川に近いところほど水の確保がむずかしかったことを示しています。また、新大和川の堤防に沿って、会所などの建物が建てられ、住居はこの周辺に集中していたことがわかります。これは、交通の便の良さと、収穫高の低い地に住居を構えるという２つの理由からと思われます。屋鋪（敷）地の面積は、全体の３％を占めていました。

市村新田の庄屋を勤めていた寺田家は、三田家などとともに柏原船の営業に参加し、奈良街道に面した新町（現在の今町）に住居を構えました。そして、北條屋の屋号で油粕問屋などを営む一方、市村新田の開発や経営に深く関わっていました。今町にある現在の寺田家の建物は、明和年間（約240年前）に建てられたものと考えられ、７つの建物が国の登録文化財となっています。

市村新田の現状

庭井新田

新大和川によって、住吉郡庭井村は、南北に分断されることになりました。そこで、庭井村では、新大和川左岸のもとの依羅池を新田として開発しました。新大和川によってつぶれた庭井村の土地は６町余り、高91石で、庭井新田は９町余り、高105石でした。明治４年（1871）、郡界変更によって、大和川以南が和泉国大鳥郡に属することになり、現在は堺市となっています。

庭井新田は、他の新田に比べると田の占める率が高く（約80％）、また、その４割以上が上田で収穫が多かったことがわかります。この庭井新田の経営に、柏原村の柏元家が中心的な役割を果たしていました。柏元家は、開発直後に庭井新田の土地を購入し、明治まで経営に深く関わっていました。

柏元家は、松本家とともに柏原村の西方の庄屋を勤めていました。また、若江郡新庄村（現在の東大阪市新庄）の庄屋も勤め、庭井新田の経営に参加するなど、明治にいたるまで、幅広い経済活動を行っていました。

新田、その後

旧大和川の堤防は、墓地や神社の境内などとして残っているところを除き、ほとんどその痕跡を残していません。しかし、ＪＲ大和路線（関西線）や国道25号線など、鉄道や道路敷として利用されているところもみられます。柏原市では、今町２丁目にある今町墓地が周囲よりも約４ｍ高く、旧大和川の景観を感じさせてくれます。また、ＪＲの鉄道もやや高いところにあり、旧大和川の堤防を実感できます。おとなりの八尾市内でも、上之島町にある御野県主神社の境内に堤防が残っているほか、安中新田の会所が整備され、近く公開される予定です。

新田には、住宅がほとんどなかったため、明治以降に工場や大規模な住宅開発の行われたところがたくさんあります。市村新田では、ＪＲ柏原駅付近が商業地、その南は住宅地、北は工場が建てられ、柏原中学校の用地にもなっています。その北の二俣新田では、豊富な旧大和川の伏流水を利用して、工場が多数建設されました。また、山本新田や柏村新田などは住宅地として生まれ変わりました。東大阪市の花園ラグビー場は川中新田に、大東市の深北緑地は深野北新田の跡地につくられ、広い土地が確保できるところから、公共用地となっているところが多いのも特徴のひとつです。

最後に

1704年に大和川付け替えから300周年を迎え、大和川付け替えの意義について、もういちど考えてみようと取り組んでいます。今年は、付け替え後に開発された新田に対して最初の検地が実施されてから300年となることから、新田を中心に大和川を考えてみようと企画してみました。大きなテーマを掲げましたが、結局は柏原市内の市村新田と柏原村の柏元家が経営に参加していた庭井新田以外はほとんど取り上げることができませんでした。両新田にしても、その開発や経営の実態については、まだまだわからないことばかりです。これからも、史料の収集・調査・研究を進めていく必要があります。

今回の企画展に際して、柏原市今町の寺田信正氏から、貴重な史料を多数お借りすることができました。寺田家には膨大な史料が残されており、柏原船や市村新田関係の史料には、貴重なものが多数みられます。現在、少しずつ整理を進めており、これらの史料整理が進めば、さらに市村新田やその経営に関わった人々の姿が明らかになってくるものと思います。今後も、じっくりと取り組んでいきたいと考えておりますので、みなさまのご協力をよろしくお願いします。

・このリーフレットは、2008年３月22日（土）から６月25日（日）まで開催する柏原市立歴史資料館春季企画展「大和川付け替えと新田開発」に伴って作製したものです。

・掲載した写真の中で、市村新田の検地帳と絵図４点は、寺田信正氏所蔵史料です。庭井新田の検地帳・絵図は柏元家史料で、柏元家から寄贈・寄託を受けた当館保管史料です。角倉與一代官所支配組合村絵図・築留絵図・二俣新田絵図は小山家史料で、小山家から寄贈を受けた当館所蔵史料です。なお、市村新田検地帳・絵図４点と庭井新田検地帳・絵図３点の写真は、阿南辰秀氏の撮影による写真です。各氏のご協力に感謝します。